

食卓塩シリーズ・ブランドストーリー



©'76, '19 SANRIO APPR. NO.S602649

はじめに

「赤いキャップの食卓塩」は、おそらく多くの方が一度は目にしたことのある、おなじみの商品でしょう*。「食卓塩 100g」の発売は昭和 27（1952）年ですが、「食卓塩」という名称を冠した商品は、実は戦前からありました。そのような「食卓塩」の長い歴史をご紹介します。

* 食塩カテゴリー（50～150g、袋包装品を除く）における重量シェア No.1 商品。2022 年、全国。KSP-POS（食品 S M）を基に塩事業センターで集計。

* 令和 5（2023）年 8 月時点の認知度は 79.3%（全国平均。塩事業センター調査）



「食卓塩100g」の認知度
(令和5年8月塩事業センター調査/n=943)

戦前の「食卓塩」

大正時代、日本で流通していた塩の多くは、塩田でつくった濃い塩水を、平らな釜（平釜）で煮つめてつくった、比較的水分等が多いもので、現在のようなサラサラした塩はほとんどありませんでした。

人々の生活の洋風化を受けて、食卓などで使いやすい塩が求められるようになったこの時代に、「食卓塩」という名前を冠した塩が、当時塩専売事業を行っていた「大蔵省専売局」から発売されています（最初の「食卓塩」の発売は大正 10（1921）年）。日本の塩田でつくるのではなく、海外から輸入した天日塩などを原材料に、これを一度溶かして濃い塩水をつくり、それを煮つめてつくられたもので、当時としては珍しくサラサラした塩でした。



大正から昭和（戦前）まで販売されていた「食卓塩」

この「食卓塩」については、あまり詳しい記録は残っていませんが、昭和の時代にも引き続き販売されていました。しかし、昭和 19（1944）年、労力や原料塩などが不足する中で、製造が中止されます。

戦後の「食卓塩」の再開

戦後の昭和 24（1949）年から、日本の塩専売事業は、日本専売公社が担うこととなりました。そして、国民生活も次第に安定してきた昭和 25（1950）年、「食卓塩」の製造が再開されます。

戦後、最初に発売された「食卓塩」は、紙箱入りの「食卓塩 500g」で、原材料の塩を水に溶かして濃い塩水をつくり、これを密閉型の釜（立釜）で煮つめ、乾燥させた後に、サラサラ性を維持するための添加物を加えてつくられるものですが、この製造方法は、現在まで変わっていません。そして、翌昭和 26（1951）年には、紙箱入りに替わってビン入りの「食卓塩 500g」が発売されます。



左は紙箱入り、右はビン入りの「食卓塩 500g」
画像提供：たばこと塩の博物館

「食卓塩 100g」の発売

ビン入りの「食卓塩 500g」に対し、「食卓にいつでも置ける手頃な小ビンが欲しい」という声が寄せられるようになります。そこで昭和 27（1952）年 7 月に発売されたのが、現在までご愛顧いただいている「食卓塩 100g」（当時の小売価格は 30 円）です。

ただし、当時のデザインは、皆さまがおなじみの現在のデザインとは異なっており、ビンにラベルを貼付したものでした。またビンの形も、現在よりもやや角ばっています。なお、中身の塩は、水分などが少なく粒も揃っており、日本専売公社は、「欧米の企業の商品にも負けない品質」と胸を張っていたようです。

日本専売公社は、「全家庭の卓上に食卓塩を」をスローガンに広告宣伝に努め、そのおかげもあってか、発売当初には需要に製造が追いつかず、地域によっては店頭に行き渡らないこともありました。



発売当初の「食卓塩 100g」のポスター
画像提供：たばこと塩の博物館

なお、発売直後の「食卓塩 100g」関係の貴重な写真については、当センターサイトに『「食卓塩」の歴史写真館』を掲載しています（https://www.shiojigyo.com/product/upload/shokutakuen_gallery.pdf）。

おなじみのデザインに

発売後、「食卓塩 100g」は次第に普及し、広く知られるようになっていきます。*

※ 昭和 39（1964）年時点の認知度は 64%（全国平均。日本専売公社調査）

そして、昭和 44（1969）年、ビンの形状を含めたデザインのリニューアルが行われます。これは「食生活の近代化に応じて『食生活を楽しく』するデザイン」というコンセプトのもとで行われたもので、正面に塩の結晶の側面をデフォルメしたアイキャッチャーを配置した、現在までおなじみのデザインの基本形がこのときに出来上がりました。

また、従来のビンにラベルを貼るのではなく、ビンに直接印刷する方式も、このときからです。ビンの形も、従来よりもややなで肩になりました。

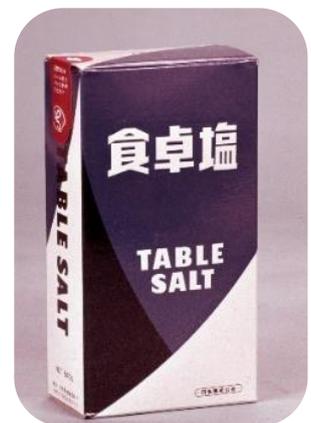


昭和 44（1969）年のリニューアル後のデザイン
現在のデザインの基本形が出来上がった

デザインリニューアルした食卓塩は、引き続き好評を博し、昭和 40 年代には、お中元時期や年末年始のちょっとした贈答品として、化粧箱に「食卓塩 100g」や「食卓塩 500g」*を入れた詰め合わせセットが重宝されたこともありました。

※ 昭和 33（1958）年には、紙箱入りの「食卓塩 500g」（昭和 25 年に発売されたものとは別デザイン）も発売されています（昭和 52（1977）年に製造終了）。

なお、発売以来 30 円で据え置かれていた小売価格ですが、オイルショックの影響等もあり、昭和 51（1976）年には 50 円、昭和 56（1981）年には 60 円になっています。



昭和 33（1958）年発売
「食卓塩 500g」

販売者と表示の変遷

時代の流れの中で、「食卓塩 100g」の販売元は、日本専売公社から、昭和 60（1985）年 4 月には日本たばこ産業株式会社（塩専売事業本部）、そして平成 9（1997）年 4 月の塩専売制度の廃止とともに、財団法人塩事業センターと移り変わりました（当センターの公益財団法人への移行は平成 26（2014）年 4 月）。



昭和 55 (1980) 年 ~
日本専売公社の社章を掲載



平成 3 (1991) 年 ~
日本たばこ産業株式会社の
コミュニケーション・ネームを掲載



平成 9 (1997) 年 ~
財団法人塩事業センターの
ロゴマークを掲載



平成 26 (2014) 年 ~
公益財団法人塩事業センターの
ロゴマークを掲載

この間、小売価格は、平成 4 (1992) 年には 68 円 (税別)、平成 28 (2016) 年には 91 円 (同)、そして令和 5 (2023) 年 7 月から 118 円 (同) になりました。

また、時代の要請に合わせて、ビンへのリサイクルマークの表示 (平成 14 (2002) 年) や「食用塩の表示に関する公正競争規約」に基づく表示への切り替え (平成 20 (2008) 年)、栄養成分の表示 (平成 29 (2017) 年) なども行ってきました。

国内製造

名称	塩
原材料名	天日塩(メキシコ)/炭酸マグネシウム
内容量	100g
販売者	公益財団法人塩事業センター 〒140-0014 東京都品川区大井1-47-1 ☎0120-771-672 http://www.shiojigyo.com/
製造所	日本食塩製造株式会社 本社工場 神奈川県川崎市川崎区夜光3-3-3
製造方法	
原材料名	天日塩(メキシコ)/炭酸マグネシウム
工程	溶解、立金、乾燥、混合
栄養成分表示(100gあたり)	
熱量	0kcal たんぱく質:0g 脂質:0g
炭水化物	0g 食塩相当量:99.0g



キャップ:PP
中フタ:PE
本体はガラス。

令和 5 (2023) 年 9 月現在の
「食卓塩 100g」の表示

食卓塩シリーズの多様化

そして、「食卓塩シリーズ」は、消費者のニーズに合わせて多様化していきます。平成 26 (2014) 年には、「食卓塩 100g」の詰め替え用にも使えるスタンディングパウチの「食卓塩 300g」が、また塩分量を気にする方の要望に応えるべく平成 30 (2018) 年には「食卓塩 減塩タイプ 90g」が発売されました。そして令和元 (2019) 年 11 月、「ハローキティ」とのコラボレーションによる「HELLO KITTY 食卓塩」が発売され、「食卓塩シリーズ」は 4 商品となりました。



発売から 70 年を超えて

令和 4（2022）年、「食卓塩 100g」は、発売 70 周年を迎えました。これを記念して、塩事業センターでは、同年 9 月から 12 月まで、アニバーサリーイベント「食卓塩 100g 70 周年ありがとう フォト作品募集」を開催しました。このイベントは、ご家庭で活躍している「食卓塩」や「食卓塩」のある風景など、「食卓塩」にまつわる写真を応募いただくもので、多数の応募をいただき、「食卓塩」が皆様の生活に溶け込んだ商品であることを改めて確認することができました。

なお、このイベントの入賞作品は、当センター公式サイトでご覧いただけます。

（「食卓塩 100g 70 周年ありがとう フォト作品募集 入賞作品発表」

https://www.shiojigyo.com/product/list/history/shokutakuen70th_result/）



「食卓塩 100g 70 周年ありがとう フォト作品募集」
最優秀作品「楽しいね。」 投稿者：mai 様



（表面）

（裏面）

「食卓塩 100g 70 周年ありがとう フォト作品募集」の
賞品のひとつ、記念ボトル「金の食卓塩」（非売品）

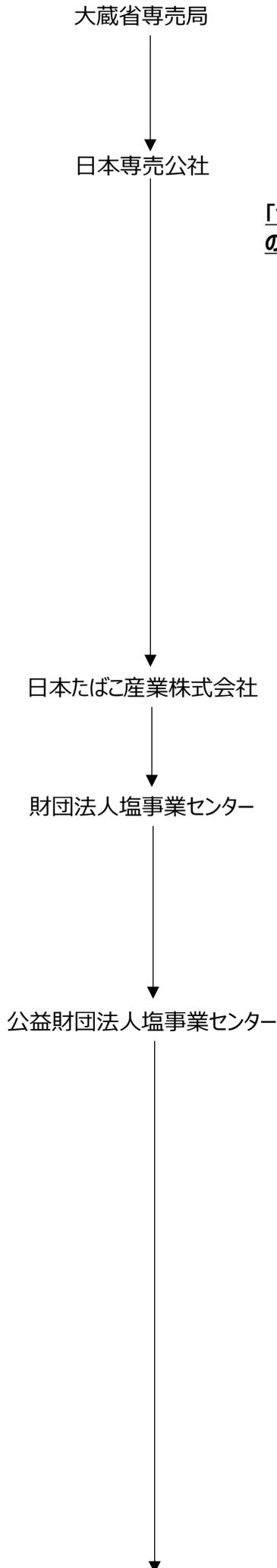
また、発売 70 周年を迎えた令和 4（2022）年には「日本ガラスびん協会特別賞」を、そして 72 年目となる令和 5 年（2023）10 月にはグッドデザイン賞（公益財団法人日本デザイン振興会）の「ロングライフデザイン賞」を受賞しました。

「食卓塩シリーズ」の「食卓塩 100g」は、発売から 70 年を超えました。この間、デザイン・表示の変更や価格の改定など様々なことがあり、また、シリーズ商品のラインナップも多様化しましたが、これもひとえに長年にわたる皆様のご愛顧の賜物であり、厚く御礼を申し上げます。今後とも引き続き、「食卓塩シリーズ」をよろしくお願いいたします。

令和 5 年 10 月 公益財団法人塩事業センター

「食卓塩100g」関係略年表

「食卓塩」の販売元



「食卓塩100g」
の価格（税別）

30円

50円

60円

68円

91円

118円

- **1921（大正10）年**
「食卓塩」の名を冠した商品の発売
- **1944（昭和19）年**
「食卓塩」の製造中止
- **1950（昭和25）年**
「食卓塩」の製造再開
- **1952（昭和27）年**
ビン入りの「食卓塩100g」発売 
- **1958（昭和33）年**
紙箱入りの「食卓塩500g」発売 
- **1969（昭和44）年**
「食卓塩100g」のデザインリニューアル
- **1976（昭和51）年**
- **1977（昭和52）年**
「食卓塩500g」製造終了
- **1981（昭和56）年**
- **1985（昭和60）年**
- **1992（平成4）年**
- **1997（平成9）年**
- **2002（平成14）年**
ビンへのリサイクルマークの表示
- **2008（平成20）年**
「食用塩の表示に関する公正競争規約」に基づく表示への切り替え
- **2014（平成26）年**
スタンディングパウチの「食卓塩300g」発売 
- **2016（平成28）年**
- **2017（平成29）年**
栄養成分の表示
- **2018（平成30）年**
「食卓塩減塩タイプ90g」発売 
- **2019（令和元）年**
「HELLO KITTY 食卓塩」発売 
- **2022（令和4）年**
「日本ガラスびん協会特別賞」受賞
「食卓塩100g」発売70周年  70周年記念ボトル
「金の食卓塩」
- **2023（令和5）年**
「ロングライフデザイン賞」受賞 